

## 安全データシート

## 1-フェニルプロパン-1-オン

改訂日: 2024-01-29 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名 : 1-フェニルプロパン-1-オン  
CB番号 : CB8695754  
CAS : 93-55-0  
同義語 : 1-フェニルプロパン-1-オン

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 医薬・香料原料,食品添加物(香料)  
推奨されない用途 : なし

## 会社ID

会社名 : Chemicalbook  
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟  
電話 : 400-158-6606

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 分類実施日

GHS改訂4版を使用  
平成24年。政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7版)を使用

## 物理化学的危険性

引火性液体 区分4

## 健康に対する有害性

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(膀胱)

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分2B

## 環境に対する有害性

オゾン層への有害性 分類実施中

水生環境有害性(長期間) 分類実施中

水生環境有害性(急性) 分類実施中

## GHSラベル要素

絵表示

GHS07

#### 注意喚起語

危険

#### 危険有害性情報

臓器の障害(膀胱) 臓器の障害

眼刺激

可燃性液体

#### 注意書き

#### 安全対策

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱後は手などをよく洗うこと。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

炎や高温のものから遠ざけること。-禁煙。

#### 応急措置

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。

火災の場合には、火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火すること。 火災の場合:消火するために...を使用すること。

#### 保管

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

#### 廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

#### 他の危険有害性

---

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	: 単一製品
化学名又は一般名	: 1-フェニルプロパン-1-オン
別名	: プロピオフェノン、1-プロピオニルベンゼン、エチルフェニルケトン、Propiophenone、1-Propionylbenzene、Ethyl phenyl ketone
濃度又は濃度範囲	: 100%
分子式(分子量)	: C9H10O(134.18)
CAS番号	: 93-55-0
官報公示整理番号(化審法)	: (9)-1157、(3)-2673
官報公示整理番号(安衛法)	: (9)-1157、(3)-2673
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	: データなし。

物

## 4. 応急措置

### 吸入した場合

特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

### 皮膚に付着した場合

特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

多量の水と石けんで洗うこと。

### 眼に入った場合

特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

### 飲み込んだ場合

特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

### 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

データなし。

### 応急措置をする者の保護

データなし。

### 医師に対する特別な注意事項

データなし。

---

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

### 使ってはならない消火剤

棒状水

### 特有の危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

### 特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火するために粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂を使用すること。

### 消火を行う者の保護

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

必要に応じた換気を確保する。

### 環境に対する注意事項

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエスなど)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。大量の水で洗い流す。

多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。

火花を発生しない安全な用具を使用する。

漏出物の上をむやみに歩かない。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

#### 安全取扱い注意事項

##### 火気厳禁

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱後は手などをよく洗うこと。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

炎や高温のものから遠ざけること。-禁煙。

#### 接触回避

塩素酸ナトリウム、過塩素酸ナトリウム、過酸化水素、過酸化ナトリウム、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、過マンガン酸カリウム、硝酸、硫酸、無水クロム酸、亜塩素酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、重クロム酸カリウム、過塩素酸

#### 衛生対策

取扱い後は手などをよく洗うこと。

## 保管

### 安全な保管条件

火気厳禁

施錠して保管すること。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

### 安全な容器包装材料

データなし。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度

未設定

### 許容濃度

日本産衛学会(2012年度版)

未設定

### 許容濃度

ACGIH(2012年版)

未設定

### 設備対策

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

### 保護具

#### 呼吸用保護具

必要に応じて、適切な呼吸用保護具を着用すること。

#### 手の保護具

保護手袋を着用すること。保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

#### 眼の保護具

保護眼鏡、保護面を着用すること。保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

#### 皮膚及び身体の保護具

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

形状 固体または液体。通常液体として提供される。(Merck (14th, 2006))

色 無色(Ullmanns(E) (6th, 2003))

臭い	強力な花の香り(Merck (14th, 2006))
臭いのしきい(閾)値	データなし。
pH	データなし。
18°C(Ullmanns(E) (6th, 2003))	
218°C(Merck (14th, 2006))	
85°C(CC)(GESTIS (Access on July. 2012))	
データなし。	
データなし。	
データなし。	
1.5 mmHg(20°C)(HSDB (2003))	
4.63 (Air= 1)(NFPA (14th, 2010))	
1.0105 (liq)(20°C/4°C)(Merck (14th, 2006))	
データなし。	
データなし。	
データなし。	
2.19(HSDB (2003))	
メタノール、無水エタノール、エーテル、ベンゼン、トルエンに混和。水、グリセロール、エチレン グリコール、プロピレングリコールに不溶。(HSDB (2003))	
水:2000 mg/L (20°C, EXP) (Howard (1997))	
<b>融点・凝固点</b>	
18°C(Ullmanns(E) (6th, 2003))	
<b>沸点、初留点及び沸騰範囲</b>	
218°C(Merck (14th, 2006))	
<b>引火点</b>	
85°C(CC)(GESTIS (Access on July. 2012))	
<b>蒸発速度(酢酸ブチル=1)</b>	
データなし。	
<b>燃焼性(固体、気体)</b>	
データなし。	
<b>燃焼又は爆発範囲</b>	
データなし。	
<b>蒸気圧</b>	
1.5 mmHg(20°C)(HSDB (2003))	
<b>蒸気密度</b>	
4.63 (Air= 1)(NFPA (14th, 2010))	
<b>比重(相対密度)</b>	

1.0105 (liq)(20°C/4°C)(Merck (14th, 2006))

### 溶解度

メタノール、無水エタノール、エーテル、ベンゼン、トルエンに混和。水、グリセロール、エチレングリコール、プロピレングリコールに不溶。(HSDB (2003))

水:2000 mg/L (20°C, EXP) (Howard (1997))

### n-オクタノール/水分配係数

2.19(HSDB (2003))

### 自然発火温度

データなし。

### 分解温度

データなし。

### 粘度(粘性率)

データなし。

---

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

情報なし。

### 化学的安定性

情報なし。

### 危険有害反応可能性

情報なし。

### 避けるべき条件

情報なし。

### 混触危険物質

塩素酸ナトリウム、過塩素酸ナトリウム、過酸化水素、過酸化ナトリウム、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウム、過マンガン酸カリウム、硝酸、硫酸、無水クロム酸、亜塩素酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、重クロム酸カリウム、過塩素酸

### 危険有害な分解生成物

情報なし。

---

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

## 経口

ラットのLD50値は4533 mg/kg(PATY (5th, 2001))に基づき、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5に相当)とした。GHS分類:区分外

## 経皮

ウサギのLD50値は4533 mg/kg(PATY (5th, 2001))に基づき、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5に相当)とした。GHS分類:区分外

## 吸入:ガス

GHSの定義における液体である。GHS分類:分類対象外

## 吸入:蒸気

ラットに430 ppm(2.360 mg/L)を8時間ばく露により全例が生存した(PATY (5th, 2001))との結果から、LC50値は>2.360 mg/L(4時間換算:3.337 mg/L)と推定されるが、区分を特定できないので分類できない。なお、本物質蒸気の飽和濃度にばく露したと記載されているので、蒸気(mg/L)の基準値を適用した。

GHS分類:分類できない

## 吸入:粉じん及びミスト

データなし。GHS分類:分類できない

## 皮膚腐食性及び刺激性

ウサギの皮膚に24時間適用した試験で刺激性はごく僅か(barely visible)であった(PATY (5th, 2001))との報告に加え、モルモットの皮膚に24時間適用した試験では軽度の紅斑と軽度~中等度の浮腫が見られ、適用後14日間に落屑が観察されたとの報告(PATY (5th, 2001))もあり、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分3に相当)とした。GHS分類:区分外

## 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギの眼に対し軽度の刺激性(lightly irritating)があり(PATY (5th, 2001))、さらにヒトで本物質の蒸気は眼に刺激性がある(HSDB (2003))との記載により、区分2Bとした。なお、ウサギの眼に適用した試験で、適用24時間後の傷害の程度が1~10の10段階評価(最も重度の場合10)において1であった(HSDB (2003))との報告もある。GHS分類:区分2B

## 呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない

## 皮膚感作性

データなし。GHS分類:分類できない

## 生殖細胞変異原性

in vivo試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro試験として、エームス試験において陰性の結果(JECFA 1033 (2002))が報告されている。GHS分類:分類できない

## 発がん性

データなし。GHS分類:分類できない

## 生殖毒性

データなし。GHS分類:分類できない

---

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

#### 水生環境有害性(急性)



分類実施中

水生環境有害性(長期間)

分類実施中

オゾン層への有害性

分類実施中

---

## 13. 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中中等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

### 汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

---

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 国連番号

特定できない。

### 国内規制

#### 海上規制情報

特定できない。

#### 航空規制情報

特定できない。

#### 陸上規制情報

消防法の規定に従う。

### 特別安全対策

重量物を上積みしない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

移送時にイエローカードの保持が必要。

---

## 15. 適用法令

### 消防法

第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

### 参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法(化審法)<https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)<https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>  
<http://www.echemportal.org/echemportal/index?>  
pageID=0&request\_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

#### 免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。